

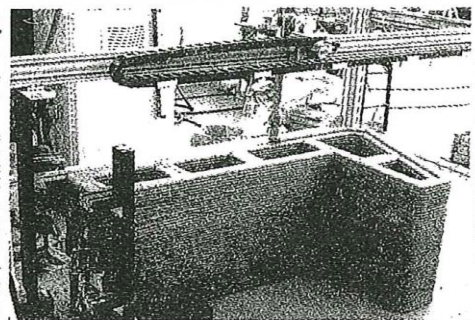
建設新聞

2023年(令和5年)12月8日(金曜日)

橋本店、Polyuse(東京都港区)

“型枠要らず”で省力・省人化

3Dプリンター構造物製作公開



3Dプリンターの製作実演

岩本代表が建設用3Dプリンター、弘前大学農学生命科学部の東信行教授が魚道への活用効果などをそれぞれ解説した。

説明によると、3Dプリンターを活用することで複雑な形状にも対応可能で、型枠が要らず、製作場所も現場付近に設置でき運搬も不要なため、省力・省人化、工事期間の短縮などが期待されるという(1日1立法メートルの構造物を

1基製作可能)。また、型枠が不要なので職人の確保が難しい中、技術者・技能者不足の解消にもつながる。加えて、プリンターに入力する情報はBIM/CIMデータを交換するだけなので、3次元図面とも相性が良い。

その後、試験場に移動し実際に現場に設置するコンクリート構造物の製作の過程を見学。参加者は、少しずつ層が積み重なっていく様子を間近で見ただけ、熱心に質問を投げ掛けていた。

岩本代表は「全国で10

0件以上、東北でも実績があり、技術も進歩してきた。強度も問題なく、対象物も拡大している。建設業の人手不足解消に貢献できれば」と述べた。橋本店の相原真士執行役員土木部長は「使用効果に驚き、試行することとした。3Dプリンターを積極的に採用して現場の生産性向上につなげていく」と期待した。

今後、製作を進めるとともに、工事でも使用する構造物について弘前大学や東北技術事務所が実証試験を行う。

橋本店(仙台市 武田文孝代表取締役社長)と建設用3DプリンターメーカーのPolyuse(東京都港区 代表取締役・岩本卓也、大岡航)は6日、3Dプリンターによるコンクリート構造物の製作実演見学会を、宮城県多賀城市の東北地方整備局東北技術事務所で開催した。

両社は、宮城県丸森町で施工中(東北整備局宮城南部復興事務所発注)の令和元年東日本台風風災害復旧事業(内川流域 山下堰(右岸)工事)で、3

当日は、主催者のほか魚道の研究を行う弘前大学と、コンクリート二次製品を販売するホクエツも協力。自治体職員、メーカーを中心に予定を上回る80人が参加した。冒頭、技術の有用性に共感し、会場を提供した東北技術事務所の川村英弘副所長は「担い手不足解消に寄与する技術だ。皆さんの業務効率化のきっかけにしてほしい」とあいさつした。

引き続き、東俊洋工事所長(橋本店)が工事概要、

この画像は、当該ページに限って”建設新聞社”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。